

(案)

薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画 2016-2020  
2018 年度進捗状況の確認について  
(2019 年 4 月 11 日 薬剤耐性菌に関するワーキンググループ)

2017 年 3 月、食品安全委員会は、科学的知見・情報の収集、国際動向への対応及び情報発信といった薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価に係る課題に対し、リスク評価の一層の推進や向上に向け、2020 年度までに実施する行動計画を策定した。

行動計画では、具体的な行動として、評価の実施、評価の実施に必要な科学的知見・情報の収集及びその他の3項目の取組を行うこととし、その進捗状況を薬剤耐性菌に関するワーキンググループにおいて毎年確認することとしている。

項目	2018 年度の取組状況等
<b>4-1 評価の実施</b>	
(1) 評価の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の抗菌性物質について評価を行い、評価結果を農林水産省に答申。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①家畜に使用するマクロライド系抗生物質(飼料添加物及び動物用医薬品)(2019 年 2 月)</li> <li>②家畜に使用するテトラサイクリン系抗生物質(飼料添加物及び動物用医薬品)(2019 年 3 月)</li> </ul> </li> <li>評価終了案件は、飼料添加物及び同系統の動物用医薬品で 26 物質・11 系統中 22 物質 6 系統終了(2017 年度末時点で 17 物質 5 系統終了)、動物用医薬品の承認・再審査等で 33 件中 27 件終了(2017 年度末時点で 31 件中 27 件終了)。</li> </ul>
(2) 再評価の適切な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>硫酸コリスチンの再評価の必要性を判断するため、評価書において更なる情報収集が必要とされたコリスチン耐性菌の発生動向や <i>mcr-1</i> 遺伝子の保有状況等に関する研究課題を 2017-2018 年度に実施。今後、硫酸コリスチンの再評価の検討に活用予定。(※4-2(1)と関連)</li> </ul>
(3) 評価手法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際機関の基準・指針等の改正動向や諸外国(欧州、米国等)のリスク評価手法の検討状況について調査した結果、EMA がガイドライン案第 2 版を公表 2018 年度は特段の動きはなかった。(2018 年 7 月)。今後も引き続き動向を注視し、評価手法の見直しを検討していく予定。</li> <li>米国のリスク評価機関(FDA)を訪問して意見交換を行い、評価手法について情報収集を実施。(2019 年 3 月)。(※4-2(3)と関連)</li> <li>家畜等由来の薬剤耐性菌の食品を介したヒトへの影響に関する評価手法について、2019 年度に文献調査を実施することを決定。(※4-2(1)②と関連)</li> </ul>

4-2 評価の実施に必要な科学的知見・情報の収集	
(1) 評価に必要な調査・研究事業の実施	<p>○食品健康影響評価技術研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コリスチン耐性菌の出現状況と特性解析に関する研究(2017-2018年度)</li> <li>・ 硫酸コリスチンの再評価の必要性を判断するため、評価書において更なる情報収集が必要とされたコリスチン耐性菌の発生動向や <i>mcr-1</i> 遺伝子の保有状況等に関する研究を実施。(※4-1(2)と関連)</li> </ul> <p>○食品安全確保総合調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①家畜等由来の薬剤耐性菌による水圏・土壌環境等を介した食品汚染状況及びヒトへの影響、②家畜等由来の薬剤耐性菌の食品を介したヒトへの影響に関する評価手法に等について、2019年度に文献調査を実施することを決定。(※4-3と関連)</li> </ul>
(2) ワンヘルスサーベイランスへの参画及び積極的な助言等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」においてワンヘルス動向調査の方向性に関する議論に参加し、年次報告書のとりまとめに協力。(2018年11月公表)。</li> </ul>
(3) 国内外の関係機関との連携・協力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農林水産省動物医薬品検査所及び独立行政法人農林水産消費安全技術センター(ともに OIE コラボレーティングセンター)が実施するアジア諸国向け及び都道府県水産担当者向けの研修において、食品安全委員会の薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価の仕組み及び手法について講義を実施。(2018年10月、12月及び2019年1月)。</li> <li>・ 米国の <b>リスク評価担当機関(FDA)</b> を訪問し、意見交換を実施。(2019年3月)。(※4-1(3)と関連)</li> </ul>
4-3 その他	
(1) 新たな知見・情報や課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、ワンヘルスサーベイランスの進展に応じて、課題を整理し、対応を検討していく予定。</li> <li>・ <b>WHO/FAO 国際機関</b> 専門家会合の <b>環境水圏</b> 等に関する報告書の発表等を踏まえ、2019年度に文献調査を実施することを決定。(※4-2(1)②と関連)</li> </ul>
(2) 薬剤耐性に関する知識・理解に関する普及啓発の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品安全委員会 HP の薬剤耐性菌に関するページにおいて、食品安全委員会の取組について随時情報を更新。 (<a href="http://www.fsc.go.jp/senmon/sonota/amr_wg/amr_info.html">http://www.fsc.go.jp/senmon/sonota/amr_wg/amr_info.html</a>)</li> <li>・ 食品安全委員会 Facebook を利用し、幅広く国民への情報発信(薬剤耐性(AMR)対策推進月間について)を実施。</li> </ul>